

【樹木の部屋】

マユミ (ニシキギ科ニシキギ属 *Euonymus sieboldianus* var. *sieboldianus*)

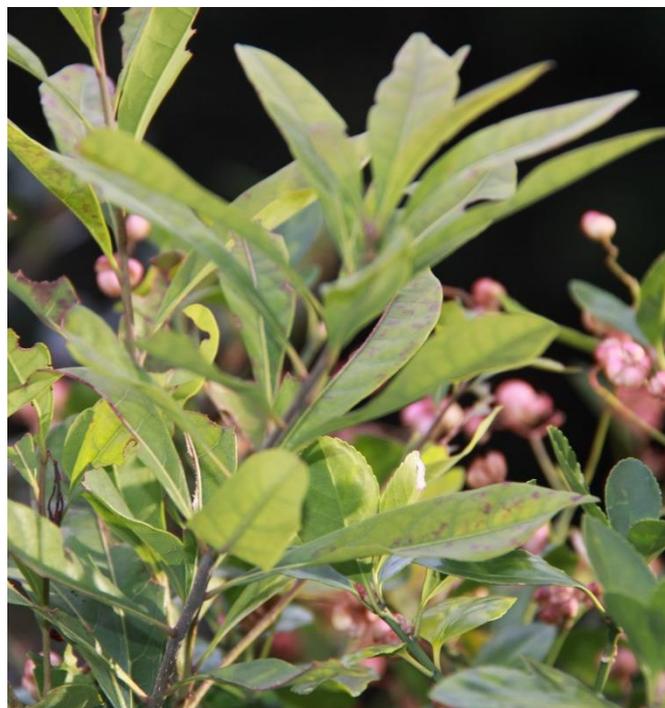
和名：マユミ (檀、真弓) **別名**：ヤマニシキギ (山錦木) **英名**：Spindle tree

ニシキギ目 落葉広葉樹 **原産地**：日本、中国

花言葉：艶めき、真心、あなたの魅力を心に刻む **花色**：白



←↓ 写真-1、2 マユミ
撮影日：2023年1月6日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん



↓ 写真-3 マユミ
撮影日：2023年1月6日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん



日本全国に分布し、山地や丘陵の林縁に自生しますが、紅葉や個性的な果実を觀賞するため、古くから庭木あるいは盆栽として親しまれてきました。材質が強い上によくしなるため、

古来より弓の材料として知られ、名前の由来になったそうです。よく枝分かれをしてこんもりと茂った樹形を見せます。

葉身は楕円形で、幅の広いものや狭いものなど変化に富み、葉縁に細かい鋸歯があり、葉脈がはっきりしています。

花期は晩春から初夏で、花色は薄い緑色で目立たず、新しい梢の根本近くに4弁の小花がいくつもつきます。

果期は秋で、夏に果実が枝にぶら下がるようにしてつき、小さく角ばった4裂の姿で、秋に熟すとふつう淡紅色に色づきます。果実の色は品種により白、薄紅、濃紅と異なるそうですが、どれも熟すと果皮が4つに割れ、鮮烈な赤い種子が4つ現れます。冬には鮮やかだった色が抜けたような果実が枝に残ります。果実は昼間開いて夜には閉じます。また、果実は有毒なので要注意です。種子に含まれる脂肪油には薬理作用の激しい成分が含まれており、少量でも吐き気や下痢、大量に摂取すれば筋肉の麻痺を引き起こします。また、成葉を食べると下痢をするといわれています。

春の新芽は山菜として利用され、採取時期は、暖地では3~4月、寒冷地では4~5月が適期で、芽吹いたばかりの若芽や若葉が利用されます。生のまま天麩羅や、茹でておひたし、和え物、油炒め、葉飯、汁の実、細かく刻んで佃煮などにできるそうです。

マユミは日本に自生する植物なので、栽培は容易で、病虫害もほとんどなく、日なたに植えれば、毎年美しい紅葉と果実を楽しむことができます。

木の質は緻密で、粘りがあり、古くはマユミの木で弓をつくったことから「真弓」と呼ばれるようになったといわれます。現在でも将棋の駒などの材料として利用されます。和紙の原料とされた時期もあるそうです。

挿木や実生で増殖でき増すが、実生では性質にばらつきがあり、挿木が一般的だそうです。

強い剪定にも耐えますが、基本的に樹形が乱れた場合以外は、あまりむやみに剪定せず、自然樹形で育てる方がおすすめです。ただ、重なり合っている枝や木の内側に向かって伸びる細かい枝は間引いて日当たりや風通しをよくしないと害虫が発生することがあるので要注意です。一方、花芽は短枝につくので、花や実を楽しみたい場合は要注意です。

<ちょっと一言>

*マユミは、雌雄異株とする説もあるようですが、雌蕊が短い花をつける個体があり、結実ににくい傾向があるだけなので、雌雄同株とするのが妥当とする説もあるようです。